

石川県立ろう学校 令和2年度 自己評価計画書(中間報告)

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実施状況の達成度判断基準	判定基準	分析及び今後の課題
1 語彙力の向上	①語彙の量や質を高めるため、個に応じた継続的な指導を工夫し行う。	○教務課 幼小中高等部 寄宿舎	耳からの情報が入りにくいため、語彙獲得に向けた様々な支援が必要である。	【努力指標】 語彙の量や質を高めるため、個に応じた継続的な指導を行う。	語彙の量や質を意識し、個に応じた指導を行っている教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員88% 保護者100% A評価	場面を決めて行ったり、普段の生活を通して行ったりと個に応じて意識して取り組んでいる人が多い。コロナ禍の状況下で、お互いの指導に関する情報をどう伝え合うかが課題である。
2 授業実践力の向上	②「一人一研究授業」を行い、聴覚障害教育の専門性や授業力の向上を図る。	○研修課 幼小中高等部	聴覚障害教育に関わって3年未満の教員が約30%。聴覚障害に配慮した授業づくりの継承や授業改善が求められる。	【努力指標】 一人一研究授業や研修を通して、授業の改善に取り組む。	自分なりの課題を持ち、授業改善に取り組んだと感じる教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員88% A評価	一人一研究授業等を活用し、自分なりの課題を持ち、授業改善に取り組んでいる。例年にない状況の中、時間の確保や授業参観の活性化に課題がある。
				【満足度指標】 学校の授業について児童生徒が満足している。	授業に満足している児童生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童生徒97% A評価	実物や絵、テレビやタブレット端末など、発達段階に合わせた視覚支援を行うことが満足につながっている。今後も、一人一人に合った支援を考え授業づくりを行っていく。
3 防災教育の充実	③災害や防災についての認識を深める。	○指導課 幼小中高等部 寄宿舎	災害時に自分の命は自分で守るという意識を持ち、行動できるようにする必要がある。	【成果指標】 幼児児童生徒一人一人が災害時に自分の命を守るための行動がとれるようになった。	災害や防災についての認識が深まり主体的に行動できた幼児児童生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員76% B評価 児童生徒94% A評価	避難訓練の事前・事後指導をはじめ、様々な機会を捉え発達段階に応じた指導を行ったことで、児童生徒の評価は高かったと考えられる。本当に理解できているか検証できていないという声があったので、今後に生かしたい。
	④災害を想定した組織的行動への取り組みを推進する。	○防災委員会 幼小中高等部 寄宿舎	災害時において、教職員一人一人が自分の役割を把握し、組織的な行動が求められている。	【努力指標】 教職員は災害時の各自の役割を理解し、備えることができる。	災害発生時における自分の役割を把握した行動をとることができたと感じる教職員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員98% A評価	第1回避難訓練(火災)について、事前アンケートを教員全員にとることで、各自が自分の役割を確認でき、スムーズな行動をとることにつながった。第2、3回の避難訓練時にも同様に全員に事前アンケートをとる。
	⑤帰宅困難時に自らの命を守る個人用備蓄品のシステムの構築と周知を図る。	○保体課 幼小中高等部 寄宿舎	学校の災害時備蓄品は初期対応のみ一般的なものでしかなく、個に応じた常用薬や着替え等の準備はない。	【成果指標】 児童生徒及び保護者が個人用備蓄品の必要性について理解し、準備することができた。	個人用備蓄品の必要性について理解し準備できた児童生徒及び保護者が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	児童生徒100% 保護者95% A評価	児童生徒・保護者ともに肯定的にとらえていることが分かった。児童生徒には防災教室で必要性和準備方法について説明する。保護者には必要性への理解と具体的な準備方法を提示したい。その上で3学期の試行につなげたい。
4 地域とのつながり	⑥地域への発信を行い、地域活動等に参加する。	○情報教育課 幼小中高等部 寄宿舎	聴者や地域の方々にとって、ろう者を知る機会が限られており、情報発信を行い、より知ってもらう必要がある。	【努力指標】 ホームページで地域活動についての内容が毎月更新され、積極的に発信している。	HPで地域活動についての内容が毎月更新され、積極的に発信している教員が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	教職員60% C評価	教員が子どもたちの情報交換を活発に行い、教育活動の記事を定期的にHPで発信していると感じる教員が約半数に留まった。情報発信を活発にするために、更新するための仕組みや分担を明確にする必要がある。
				【満足度指標】 ろう学校ホームページで、地域活動について発信されており、満足している。	ろう学校HPが毎月更新され、地域活動について発信されていると感じる保護者が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	保護者86% A評価	行事予定や活動などの更新を通して、学校の教育活動を保護者に伝える重要な発信源としてHPが活用されている。一方で、見る機会がないという声もあり、保護者への声かけや内容の充実といった改善が必要である。